

ご存知ですか

今月の市民カレンダー5日以降の内科系救急当番医は、すべて《休日夜間急病センター》です。

5	6	7
8	9	10
11	12	13
14	15	16
17	18	19
20	21	22
23	24	25
26	27	28
29	30	31

特集

最良の救急医療の提供と頼られる施設に向けて  
休日夜間急病センター

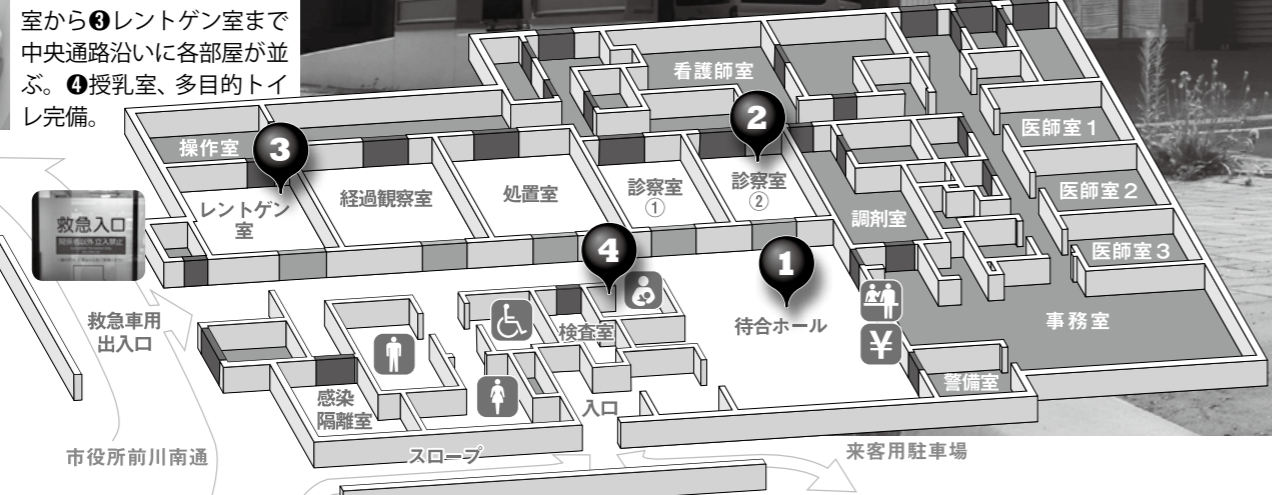
ささえる 開設。

9月5日、市民の皆さん待望の休日夜間急病センター《愛称 ささえる》が開設しました。これまで空白だった平日午前0時以降の1次（初期）救急医療の体制が確保され、より安全安心な医療環境が提供されます。全国的な医師不足や看護師不足から、救急体制の確保は困難とされる中、私たちは新しい施設のこれからの運用を大切にしなければなりません。

今月の特集では、施設と職員を紹介しながら、愛称が表す「もう一つの意味」をお伝えします。



①入口、受付・会計、診察室近くの待合ホール。②診察室から③レントゲン室まで中央通路沿いに各部屋が並ぶ。④授乳室、多目的トイレ完備。



愛称 ささえる



愛称選考委員会により82作品の応募の中から選ばれた溝口あやさん(3月27日表彰式で)

正式名	千歳市休日夜間急病センター
所在地	千歳市東雲町1丁目8-1
連絡先	☎(25)6131 FAX(25)6171 ✉yakankyubyo@city.chitose.lg.jp
用途	診療所/内科系1次(初期)救急
構造・面積	木造 平屋建/493.70㎡
開設日	平成29年9月5日
開設時間	【平日】19時～翌朝7時/医師1人、看護師3人(0時～2人) 【土曜日】14時～翌朝7時/医師1人、看護師3人(0時～2人) 【日曜・祝日】9時～翌朝7時/医師2人、看護師4人(0時～2人) ※日曜・祝日には年末年始(12月29日～1月3日)を含む。
診療体制	
ホームページ	HP <a href="https://www.city.chitose.hokkaido.jp/yakankyubyo/">https://www.city.chitose.hokkaido.jp/yakankyubyo/</a>

**愛** 称は《ささえる》。公募により名付け親となった溝口あやさん(清流)は、「支える」サポート、「安全」のセーフ(SAFE)、市民の健康を「応援する」エールを名前に込めた」と話します。内科系救急医療の空白時間を埋め、市民の安全を支え、応援する施設の誕生です。

**建** 物の建設には、利用者「の」目線に立った「快適性」「効率性」「機能性」の重視と、医療スタッフの労働環境への配慮を《設計コンセプト》とし、ユニバーサルデザインや環境への配慮などといった6つの《基本方針》に基づき、昨年10月から建設に着手しました。今年4月には、開設前の準備期間を含めた体制確保として、常勤医師となるセンター長、副センター長のほか、5人の看護師を配置し、医療物品の搬入計画や患者対応マニュアルの作成などを開始。6月には、市民説明会を市内全5か所で開催しています。

去る9月5日(火)、センターの開設式をもって、《内科系1次救急365日体制》の再開が実現しました。

市は、千歳医師会とともに、空白日や深夜0時以降の空白時間を解消し、市民の安心確保のため、他市の救急医療体制なども参考にしながら、平成25年12月に《千歳市夜間急病センターのあり方に関する検討会》を発足。翌26年10月に同検討会による「センター建設の基本方針」の報告を受け、《千歳市休日夜間急病センターの平成29年度開設》を決定しました。

平成27年10月には市の保健福祉部内に「休日夜間急病センター準備室」を設置、千歳医師会、千歳薬剤師会などとともに「準備委員会」を設け、具体的な検討・準備作業を進めてきました。

**医** 師の不足や深夜帯の荷重な労働などといった問題から、全国的に在宅当番医制の1次救急医療が減少傾向にあります。

市の救急当番体制も平成20年度から(空白日)が生じ、千歳医師会の多大な協力を得ながらも、翌21年度からは、医師や医療スタッフの疲弊による医療崩壊を招かないため、深夜0時から早朝までの診療を停止。これらの時間帯では、市内に1次救急医療の受診先がない状況となっていました。

# センター職員 座談会

## スタッフに聞く 今後の抱負

救急医療には、建物や設備以外に、職員の対応が非常に大切です。これから市民の皆さんに接するスタッフに、座談会形式で思いを語ってもらいました。



二村 看護師

倉 看護師

熊谷 副センター長

田中 看護師

松田 看護師



くまがい 熊谷 副センター長  
東京 出身  
医学博士、麻酔専門医  
救急専門医  
趣味 柔道（3段）

すずき 鈴木 看護係長  
東藻琴 出身  
救急看護認定看護師  
趣味 旅行

くら 倉 看護師  
木古内 出身  
趣味 ランニング  
(現在 ソーセージ  
づくりを研究中)

まつた 松田 看護師  
千歳 出身  
趣味 娘さんとの  
ライブ参加

たなか 田中 看護師  
札幌 出身  
趣味 食べ歩き

ふたむら 二村 看護師  
札幌 出身  
趣味 スキューバ  
ダイビング

「皆さん千歳での勤務は初めてですが、まちの印象は？」

【熊谷】 緑あふれ、空港のある若々しい都市。若い人が多く明るい印象がありますね。

【田中】 JRが混んでいて、千歳駅で降りる方が本当に多い。働く方の人口も多い活気あるまちだと思います。

【鈴木】 まちがコンパクトで人が中心に集まっていると感じます。人口が増えていくことも素晴らしいですね。

【倉】 車の往来が多くて、外国人もたくさん見受けられるのではないのでしょうか。

【二村】 市内に住んでまだ3年目ですが、面的には広大なまちだと感じています。

【松田】 生まれ育ったまちですが、空を見れば飛行機が飛び交い、青葉公園などの緑も豊富、子どもが多く、これからは活気のあるまちだと期待しています。

「着任からこれまでの間で感じたこと・市の職員としての意気込みは？」

【鈴木】 千歳市の職員として、市民の方に向き合う意識が日に日に強くなります。

【倉】 以前の勤務先も行政からの委託を受けた施設でしたし、看護職という公平公正な立場で勤めてきましたが、今

はいかない面もあるかもしれないけれど、マニュアルを上手に活用して、最善のサービスを提供していきたいなと思っています。

【二村】 市民病院をはじめ、多くの方が親身になって協力してくれているのが嬉しかったですね。千歳の医療に長年関わってこられた皆さんからたくさん教わり、正に『いいところ取り』のマニュアルを作れたのかなど、それをベースに

他市での救急医療の経験がある非常勤職員の方からの意見も取り入れていますので、これから美味しいエキスが出てくると信じています(笑)。

【鈴木】 特に市民病院の皆さんは、看護師だけではなく、各診療科の先生、薬剤や検査などのコメディカル(医師・看護師以外の医療従事者)の方など、多方面からの支えがありました。マニュアルづくり以外にも、私たちへの研修や機器使用方法のアドバイス

をいただくなど、感謝の気持ちに堪えません。

【熊谷】 本当に多くの方の協力で、素晴らしいマニュアルが完成したと思います。なかでも外国人対応や指さしの会話シート、通訳システムの導入などの試みも行っています

よね。きっちりした医療を提供したいという皆さんの気持ちが形になってきたのかな

回のセンター開設への注目の度合いは高いと思いますので、以前より気持ちを引き締めなくてはと思っています。

【松田】 準備の5か月間、新しい建物で新しい仲間と立ち上げに携わり、楽しく幸せだと思えました。より高みを目指してみんなで突き進んでいきたいという気持ちですね。

【二村】 今まで看護師として患者さんへの奉仕の心を持ってきました。今後は市の職員として市民の皆さんに奉仕するという意味で、もっと強い奉仕の心を持たなければならぬと思います。

【田中】 市の職員として、そしてセンターの看護師としても、市民の皆さんとは近い関係にあるんだと実感しています。身近な立場で皆さんの期待にお応えできるようがんばりたいと思っています。

「開設までに5回の市民説明会を開催しましたが、どのように感じましたか？」

【松田】 説明会での参加者の意見や質問の内容を聞いて、夜間に苦しくなったときの不安や心配を強く抱いていることが、ひしひしと伝わってきました。本当に期待されているセンターなんだと。

【二村】 正直、(参加者は)そんなに来ないかなと、来ても

「患者さんとのように接していこう、どんなセンターを目指そうと思いますか？」

【鈴木】 千歳ではしばらくの間、深夜の救急病院がなかったの、週末や祝日の日中も含め、センターの存在自体が市民の安心感につながると思っています。帰宅してから

に気をつけたら良いかなどアドバイスもしていきたいですね。《受診した》という安心感が、実は一番求められるのではないのでしょうか。

また、1次救急の施設ということで、基本はご自身で来院できる方を対象としています

【熊谷】 2次救急との連携も重要になっていきますね。その意味で症状を改善・緩和する一時的な応急手当を適切に行うことが一番大きな役割で

高齢な方に偏るのかなと思っていました。若い方、子連れのお母さんも参加されていて、具体的な質問が寄せられていたことに期待度の高さを身にかけて感じました。

「開設後の患者対応マニュアルなども用意していますが、注意したことや手応えは？」

【鈴木】 マニュアルもゼロから全てを作っていましたので、《しっかりと医療と看護が提供できる》という視点で、医療の安全面とか、患者さんの感染の管理、薬の提供とか、そういうことがしっかりと行えるよう、皆さんの意見を出し合い作成しました。スタッフの間でも専門分野などの差はありますが、全員、同じ対応ができるよう、実際に活用できるマニュアルであることを意識して作成しています。

【倉】 これまでも1次救急は担当してきましたが、文書に仕立てることで、さまざま《気づき》がありました。それと、看護する側の視点だけではなく、市民の心情に沿うための対応方法も加えられていて、いままでも気がつかなかったことなども多く、勉強になりました。

【松田】 一貫性のあ

はないかなと今は考えています。

【二村】 私が千歳に来たばかりの頃、真夜中におなか

が痛くなり、「どこに行ったらいいのかわかんない」と思ったことがありません。自衛隊が多く、人の出入りが多いまちですので、毎日ここ、お正月もゴールデンウィークも

ここ、というように、センターがあり続けることが大きな安心を与えられるのではないのでしょうか。

【田中】 夜中という、突然の発症や朝まで待てない痛みもあると思いますが、受診できる病院も限られ、患者さんにとっては選余地すらないという気持ちもあります

ね。《先生に診てもらった》という安心感を得て朝まで過ごしていただけることも良いのかなと思います。

【倉】 同じ症状でも昼より夜に出たときの方が、患者さんの不安も大きいですが、特にお子さんがいる方は、本

当に朝までこのままでいいかわからないという不安も大きいと思うので、相手にとっては「もう1回症状が出たら来て

ください」とか、「この後と同じ状態であれば明日まで待っても大丈夫ですよ」などの一言も大事かと。また、

「もう1回症状が出たら来て

ください」とか、「この後と同じ状態であれば明日まで待っても大丈夫ですよ」などの一言も大事かと。また、

「もう1回症状が出たら来て

ください」とか、「この後と同じ状態であれば明日まで待っても大丈夫ですよ」などの一言も大事かと。また、

「もう1回症状が出たら来て

ください」とか、「この後と同じ状態であれば明日まで待っても大丈夫ですよ」などの一言も大事かと。また、

るマニュアルができたと思います。これを基に私たちみんなで連携することで、より良いサービスが提供できる。今回のマニュアルづくりでは、医療事務や薬剤師の方の意見も取り入れていますが、本当にたくさんの方の職種の方の努力で《医療》が成り立つのだと深く感じました。

【田中】 市民病院や救急隊の方などとも話ができて良かったですね。私たちも、患者さんが来院されてから帰宅するまでの一連の流れの中で、2次救急への搬送など、外部の機関の方との連携プレーが大事なんだと思いました。

なかなかスムーズに

(次ページへ)



### 最良の救急医療の提供と 頼られる施設に向けて 休日夜間 急病センター 「ささる」 開設。

1次救急  
の中にも重症の方は紛れていますので、トリアージの過程で重要な患者を《見逃さないという気持ち》を、自分の中にしっかりと持ってやっています。【松田】 同じ市民として、皆さんに頼りにしていただけることは嬉しいことですし、今まで大変でしたという、寄り添う気持ちでお迎えする医療・看護を提供したいと思っています。

【熊谷】 市民の皆さんと信頼関係を持って、心から頼りにされるセンターを目指したいですね。いいメンバーでスタートが切れたと思います。皆さん、がんばってください。

△座談会 8月10日

休日夜間急病センター  
開設後の1次救急医療体制

休日や夜間の急な発熱や腹痛などに対応する内科系の1次救急医療は、全て休日夜間急病センターが担当します。

- ▶ センターの開設に合わせて、これまでの内科系1次救急医療の「当番制」は廃止となりました。  
(外傷や骨折などの外科系1次救急医療は、これまでどおり当番制で、変わりありません。)
- ▶ これまで深夜0時までだった内科系1次救急医療の診療時間は、翌朝7時まで延長となりました。  
(外科系1次救急医療は、これまでどおり深夜0時までです。)
- ▶ 市民病院の平日の小児科1次救急医療の受付時間が変更になりました。(診療時間に変更はありません。)

変更前	18時～21時	9月4日まで
変更後	17時30分～20時30分	9月5日から

※日曜日の受付時間(8時30分～11時)は変わりありません。



- ▶ 休日・夜間の症状や診療に関する相談は、引き続きちとせ健康・医療相談ダイヤル24 ☎0120(010)293 をご利用ください。



看護師・保健師・医師が24時間・年中無休でご相談に応じ、わかりやすくアドバイスします。(非通知設定電話からはつながりません。IP電話からは☎03(3839)5604(有料))

受診のときは必ずお持ちください

- 健康保険証
- 各種受給者証
- お薬手帳
- かかりつけ医の情報(診察券など)

●センターに関するお問い合わせは

保健福祉部 救急医療課 管理係  
☎(25)6131 / Fax (25)6171

▶リーフレットを用意しています。



**大**学時代から救急医療に携わりたいと考えていました。卒業後は6年ほど脳神経外科を専門としていましたが、「救急の基本は、内科を極めなければならぬ」と思い知り転科。その際、小児医療も基本から学び返しました。

一言で内科といっても幅が広いものですから、手に技術(職)をもって、それを核とした救急医療をやりたいと思い、消化器内科を中心に、内視鏡を習得し、吐血や下血などの急患にも対応できる技術を身につけてきました。

もともとは福岡出身で、北海道との縁は、今から20年前の福岡徳州会病院の脳外科時代に、当時、札幌東徳州会病院の退職医欠員の応援要員として2年間務めたところから始まりました。道内には親戚も知り合いも全くないませんでしたが、自然が多く、四季もはっきりしていて、非常に住みやすい土地だと実感したのです。福岡は、夏が長く、暑いですが(笑)。

千歳での勤務は、2年ほど前、市民病院の院長からの声かけがあり、「何もないとことから、自分の求めた救急医療を立ち上げることができるかもしれない」という思いで、即答でお引き受けしました。



市民の皆さんを支え、  
時には市民の皆さんに  
支えていただけるような  
施設になることを  
目指します



千歳市休日夜間急病センター長  
たなか ながとし  
**田中 長利**  
昭和37年12月、福岡県みやこ町生まれ/平成元年 大分大学医学部卒業/福岡徳州会病院で内科、小児科、外科、産婦人科、救急を研修し、専門を脳神経外科として6年間脳外科に就く。その後、消化器内科を専門とする内科医に転科/21年より札幌市医師会夜間急病センターに勤務。江別市、釧路市の急病センターの非常勤医師としても従事/29年4月1日付けで千歳市休日夜間急病センター長に着任/札幌在住/妻、娘3人の5人家族/趣味 読書や家族との映画鑑賞(心の映画は「カサブランカ(米国)」)

**実**は建物に関して、初期段階から設計に参加させていただきました。道内への移住は16年前ですが、札幌、江別、釧路の急病センターでの経験に基づき、非常に理想的な建物が完成したと思っています。

看護師の人員体制につきましても、札幌や恵庭の急病センターでの経験がある看護師や、2次救急の経験がある看護師が配置されたので、スタートの時点から人員数・力量ともに申し分のないメンバーが集まりました。事務担当の職員にも獅子奮迅の働きをしていただき、大変有難いと思っています。

また、センターはあくまで「1次救急」であり、ここだけでは完結できないことを広く理解していただきたいと思えます。大きな病院のようななく

T、MRI、血管造影検査などの設備はありません。1次救急としての限界から、診断がつかないまま、「家で様子を見てください」や「明日、大きな病院(2次救急)を受診してください」などと申し伝える必要もあります。そのためにも、今後は、1次・2次の連携を踏まえたよりよい医療関係の構築に尽力できたらと思っています。

あともがき

数多くの医療関係者の協力により、ハード面(建物)、ソフト面(人)が整い、おおよそ9年間の空白日を埋める365日の内科系医療体制が再開しました。大切なのは、便利なことではなく、いつもそこにあること。市民全体でそのことを喜び、理解し、永続的な運営を支えなくてはなりません。《ささえる》の愛称には、関係者のそうした願いも込められています。

特集  
休日夜間急病センター  
開設。  
最良の救急医療の提供と  
頼られる施設に向けて